

那珂市議会 産業建設常任委員会記録

開催日時 令和7年12月16日(火) 午前10時
開催場所 那珂市議会全員協議会室
出席委員 委員長 寺門 勲 副委員長 小宅 清史
委員 大和田和男 委員 笹島 猛
委員 遠藤 実 委員 福田耕四郎
欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 木野 広宣 事務局長 会沢 義範
次長 萩野谷智通 次長補佐 三田寺裕臣

会議事件説明のため出席した者の職氏名

副市長 玉川 明	財政課長 照沼 克美
財政課長補佐 郡司 智弘	産業部長 大内 正輝
商工観光課長補佐 関 慎一	建設部長 高塚 佳一
都市計画課長 黒川 耕二	都市計画課長補佐 村山 知明
土木課長 川崎 慶樹	土木課長補佐 綿引 秀晃
土木課長補佐 吉村 勉	上下水道部長 金野 公則
下水道課長 海野 英樹	下水道課長補佐 秋山 洋一
水道課長 矢崎 忠	水道課長補佐 飯田 健一

会議に付した事件

- (1) 議案第75号 令和7年度那珂市一般会計補正予算(第6号)
…原案のとおり可決すべきもの
- (2) 議案第80号 令和7年度那珂市水道事業会計補正予算(第1号)
…原案のとおり可決すべきもの
- (3) 議案第81号 令和7年度那珂市下水道事業会計補正予算(第1号)
…原案のとおり可決すべきもの
- (4) 調査事項 道の駅について
…執行部に提出する要望書の内容確認
- (5) その他
 - ・議員と語ろう会について
 - ・茨城県市議会議長会令和7年度第2回議員研修会
 - ・横手市友好訪問
 - ・台南市訪問

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前 10 時 00 分）

委員長 皆様、改めましておはようございます。

まず、開会前にご連絡をいたします。会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は、必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードにご配慮をよろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は 6 名でございます。欠席委員はございません。定足数に達しておりますので、これより産業建設常任委員会を開会いたします。

会議事件説明のため、副市長ほか関係職員の出席を求めています。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席をしております。

ここで、議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 改めましておはようございます。

今朝はかなりの霜が降りていて、やっぱり冬らしくなってきたなとすごく感じております。

本日、産業建設常任委員会、議案が 3 件ございますが、寺門勲委員長の下、慎重なる審議を賜りますようお願い申し上げ、挨拶をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

続きまして、副市長よりご挨拶をお願いいたします。

副市長 改めましておはようございます。

産業建設常任委員会、ご参集お疲れさまでございます。

今、議長のほうからお話がありましたように、本日提出しております議案は、補正予算 3 件でございます。また、今、国のほうで重点支援地方交付金を議論されておまして、本日、参議院のほうも可決するかもしれませんけれども、これにつきましては今現在検討しておまして、改めてご相談させていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

これより議事に入ります。

本委員会の会議事件は、会議次第のとおりでございます。

初めに、議案第 75 号 令和 7 年度那珂市一般会計補正予算（第 6 号）を議題といたします。

財政課より一括して説明をお願いいたします。

財政課長 財政課長の照沼です。ほか関係職員が出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。

たします。

それでは、議案第75号をご覧ください。

議案第75号 令和7年度那珂市一般会計補正予算（第6号）についてご説明いたします。

5ページをお願いいたします。

第3表、繰越明許費補正になります。追加になります。

7款土木費、1項道路橋りょう費、冠水対策推進事業1億4,250万円。

6ページをお願いいたします。

第4表、債務負担行為補正になります。追加になります。

事項、期間、限度額の順にご説明いたします。

上から3番目になります。

デマンド交通運行事業、令和7年度から令和8年度まで3,948万6,000円、4つ飛ばしまして、静峰ふるさと公園緑化管理業務、令和7年度から令和8年度まで4,243万8,000円、八重桜まつり事業（駐車場警備等）、令和7年度から令和8年度まで938万6,000円。

17ページをお願いいたします。

款、項、目、補正額の順にご説明いたします。

歳出になります。

中段になります。7款土木費、3項都市計画費、5目公園事業費1万円。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

委員長 これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

笹島委員 これ静峰ふるさと公園緑化管理業務、債務負担行為の継続ですけれども、これは4,200万円、何に使っているんですか。

商工観光課長補佐 商工観光課です。

ちょっとこちらに聞こえなかったものですから、申し訳ございません。

笹島委員 静峰ふるさと公園緑化管理業務で、7年から8年まで1年間で約4,200万円。これはどういうふうにするんですか、これは。

商工観光課長補佐 こちらにつきましては、静峰ふるさと公園内8ヘクタールを1工区から3工区までに分けまして、主な作業としましては除草作業、あとは剪定作業、あとは病害虫防除作業となっております。

以上です。

笹島委員 今の整備事業でやっぱり4,000万円かかるわけですか。

商工観光課長補佐 はい、昨今の人件費の高騰等もございまして、費用としましては4,000万円相当の費用を見込んでおります。

笹島委員 毎年これから4,000万円かかるのかな。

商工観光課長補佐　そうですね、1工区、2工区、3工区ございまして、それぞれの工区で見積りをいただいているんですが、おおむね4,000万円ということで上がっております。

以上です。

笹島委員　公園自体が広過ぎるのかな、その整備するのに。そういうことは感じませんか。

商工観光課長補佐　静峰ふるさと公園自体が12ヘクタールございまして、第1工区、第2工区、第3工区で約8ヘクタールございます。その8ヘクタールにつきまして公園の維持管理の作業をやっていただいているところでございます。

笹島委員　大変ですよ、毎回毎回4,000万円ね、していくのは。先ほど言っていたように、私が、ちょっとごめんなさい、素人考えで、1,000万円くらいで終わるのかなとは思いますが、幾ら人件費が上がったとか、云々と、便乗値上げなんかもしれないですけども。これ、ますますそういう諸物価が上がったら、同じようにますます上がってくるんじゃないですか、これ、ですよ。何かいいあれはないんですか。

これ、競争見積りか何かでやっていますよね、ですよ。その中で安いところでやっているんでしょう。

(「はい」と呼ぶ声あり)

笹島委員　これ一番安いわけ、ここ、この業者が。何社ぐらいでやっているんですか。

商工観光課長補佐　指名競争入札で6社でやっております。

笹島委員　これ高くないですか、これ、常識から考えて。

産業部長　すみません、補足させていただきます。

こちら静峰ふるさと公園の緑化管理、公園のほうを保存するための管理的経費でして、今年度、令和7年度も3,900万円ほどかかっているところです。今年度より若干ご承知のように物価高騰で来年度の分は上がっているわけなんですけれども、本来であれば来年度の当初予算で計上のところなんですけれども、静峰の八重桜まつりのほうが4月早々から始まりますので、近年どうしても気温が上がってきていまして、草の管理のほうが出てきてしまうので、当初予算で発注しますと、そこがどうしても間に合わないので、今回債務負担行為で取らせていただいて、ここ数年、同じような手法でやらせていただいていますけれども、4月1日以降、速やかに公園の管理が入れるような形で取らせていただけるように対応しているところでございます。

なので、管理的な経費として例年同程度の予算のほうは計上されているところでございます。

以上です。

笹島委員　借楽園みたいに、入園料を取ればいいけれども、そうもいかない、市民のあれで。八重桜まつりで収益上げればいいけれども、大したあれじゃないと。やっぱりツーペイくらいしたいですよ、何かね、やっぱり。そう思いませんか。これ出る一方ですよ。これからますます先ほど言っていた温暖化で人件費が上がる、上がってくれば今度は

4,000万円で済まなくなりますもんね。だから、何かで歯止めかけないとですねと、俺は思うんですけども、何かやっぱり努力が必要だと思うんですね。もちろん市内の前のいろんな道路の側溝とか、道路脇の草とか何か、ごめんなさい、除草もかかっているのは分かりますけれども、必要なものはどんどんかけなきゃいけないわけですね、我々市民生活において。

でも、公園も必要かもしれないけれども、あまりにも広過ぎますもんね、これ。ですよ。いや、ポケットパークみたいなのだったら構わないですよ。そこら辺の回りの自治会や何かの方がやってくれますから。これ本当に市のほうで管理しなきゃいけない。私はお荷物とは言いませんけれども、何か知恵、アイデアを出してやっていかないと、どんどうなぎ登りになるような気がするんですけども、いかがですか。

産業部長 そうですね、委員おっしゃる部分は十分承知しておりますけれども、その辺は公園の管理として適正にできるような形で引き続き対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

遠藤委員 ちょっと関連してですけども、今の内容は今のものを管理するので係る経費ということで、除草と剪定ですからね、そうなんです、これ多分、何年前にもこの委員会なのかな、ちょっと議論があったかもしれませんが、覚えているのは桜、古木、古くなっていて、これどうするのという議論が前あったと思うんですよ。もう倒木しちゃう、それを植え替える、それというのはどういう状況ですか。

商工観光課長補佐 今委員おっしゃるとおり、古木につきましては、年々やはり経年を、今年なんですけれども、19本伐採をしております。そちらは枯れてしまったという木がありまして、19本伐採いたしました。今後、そちらの土地のなぜ枯れてしまったか、古木なので枯れるということだと思っておりますけれども、やはり土壌調査等をして、今後枯れることのないようにしていきたいということを考えております。

以上です。

遠藤委員 これは、例えば日本の桜百選である静峰ふるさと公園の観光地としてのPRをどう考えるかと、あと当然それに係る経費もあるんで、その兼合いですよ。19本というのは何だろう、何千本中の19本が倒れたか分かりませんが、当然これがどんどん、じゃ、そういった意味では増えていくんですよ、きっと、倒れていく、本数も減る。でも、それを植え替えるとなるとお金がまた多大にかかる。かけるのかどうかも分からないですけども、そこらの考え方というのはどうなるんですか。

産業部長 補足いたしますと、すみません、今の桜の基本的な植え替えの部分については、魅力向上事業という形で計画的に入替えのほうを一通り終わらせております。その中でちょっと土壌の関係だと思われるところで、今19本枯れているというところなので、そこはそこで別途対策していくとして、桜の部分についてはそういう形で計画的に植え替え

の部分のほうが進めてきたところでございます。

以上です。

遠藤委員 今回の答弁だと、もう植え替えは終わったんですね。植え替えは終わらせているという答弁だから、終わったので、じゃ、新しく植えることはない。もうないんだけど、枯れていくのは徐々に枯れていくということですか。

産業部長 補足しますと、植え替えた中でちょっと枯れた部分が出ている箇所が見受けられるので、そこは別途フォローはしていく形では考えています。

ただ、全体的なものとしては、現段階では計画的に通り返り取りあえずは終わらせたというところでございます。

以上です。

遠藤委員 もう一回、今後新しく植え替えるというか、新しく植えることはないから、新しく植える経費はかからないという認識でいいんですね。

産業部長 そうですね、全体的な部分でということでは。

ただ、今説明があったように19本、ちょっと枯れてしまったところがあるので、そこは調査した上で必要に応じては対応していくというところはあるかと思えますけれども、そのような状況でございます。

遠藤委員 じゃ、植え替え終わっていないじゃないですか。終わっていない。植え替えは終わっていない、やっぱり今後状況に応じて植え替えはしていくという必要性はあるわけでしょう。ただ、その例えば国か何かの交付金のその補助事業終わった、補助事業が終わっただけであって、今後ずっと静峰の桜はあるわけだから、やっぱり古くなって倒れていけば植え替えが必要なわけじゃないですか。その事業が終わっただけかもしれないけれども、植え替えは今後必要なんでお金は、また除草、剪定以外にかかるんでしょうということを僕は聞きたいわけですが、どうなんですか。

産業部長 委員おっしゃる意味で言えば、当然そういうことは発生し得るという状況です。

副委員長 静峰ふるさと公園の話ですのでちょっとお聞きしたいんですけども、しどりの里跡地の管理は別途かかっているかと思うんですけども、あれは年間どのぐらいかかっているんですか。

商工観光課長補佐 農政課のほうの所管になっていきますので、商工観光課のほうでは把握しておりません。

副委員長 かしこまりました。

産業部長 すみません、当初予算のほうですけれども、しどりの里管理事業として668万5,000円が全体の事業費として計上されております。

副委員長 ありがとうございます。

委員長 ほかに質疑ございませんか。

(なし)

委員長 ほかになければ質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ声あり)

委員長 討論を終結いたします。

これより議案第75号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

委員長 ご異議なしと認め、議案第75号は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

暫時休憩いたします。執行部は入替えをお願いいたします。

休憩(午前10時18分)

再開(午前10時19分)

委員長 再開いたします。

下水道課が出席をしております。

続きまして、議案第81号 令和7年度那珂市下水道事業会計補正予算(第1号)を議題といたします。

執行部よりご説明をお願いいたします。

下水道課長 おはようございます。下水道課長、海野と申します。ほか2名が参加しています。よろしく申し上げます。

それでは、議案書1ページをお開きください。

議案第81号 令和7年度那珂市下水道事業会計補正予算(第1号)についてご説明します。

第1条、令和7年度那珂市下水道事業会計の補正予算(第1号)は、次に定めるところによる。

第2条、債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額は次のとおり定める。

内容につきましては、事項、期間、限度額の順に説明いたします。

まず、後台富士山地区污水管布設工事、令和7年度から令和8年度まで、8,800万円。工事内容につきましては、後台富士山地区の污水管布設工事になります。来年度は、同地区に複数箇所の工事を予定しておりまして、4月に工事に着工し、期間に余裕を持たせることで市民の皆さんの生活、特に交通に支障が少なくなるように進めるため、債務負担行為にて委託するものでございます。

続きまして、マンホールポンプ維持管理業務委託、令和7年度から令和8年度まで、1,603万8,000円。委託内容につきましては、公共下水道中継ポンプの維持管理になります。常時生活排水の流入があり、休みなく稼働している施設については、切れ目なく維持管理することが必要であるため、債務負担にて委託するものでございます。

最後です。自家用発電工作物定期点検業務委託、令和7年度から令和8年度まで、77

万円でございます。委託内容につきましては、自家用発電工作物設置者は維持管理及び運用に関する保安監督をさせるため電気主任技術者を選任し、国に届けなければならない、また切れ目なく維持管理する必要があることから、債務負担行為にて委託するものでございます。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

委員長 これより質疑に入ります。

質疑はございませんか。

副委員長 すみません、後台富士山地区污水管布設工事なんですけれども、これは入替えですか、それとも新設ですか。

下水道課長 お答えします。新設でございます。

副委員長 採算の見込みはあるのでしょうか。

下水道課長 新規でございますので、まだ採算はないですけれども、これから接続させていただくように話をさせてもらって、接続を強化するような形で考えております。

副委員長 ぜひよろしく申し上げます。

委員長 ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ声あり）

委員長 なければ、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ声あり）

委員長 討論を終結いたします。

これより議案第81号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

委員長 ご異議なしと認め、議案第81号は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

暫時休憩いたします。執行部は入替えをお願いいたします。

休憩（午前10時24分）

再開（午前10時24分）

委員長 再開いたします。

水道課が出席をしております。

続きまして、議案第80号 令和7年度那珂市水道事業会計補正予算（第1号）を議題といたします。

執行部よりご説明をお願いいたします。

水道課長 水道課長の矢崎です。ほか3名が出席しております。よろしく申し上げます。

それでは、議案第80号についてご説明いたします。

議案第80号 令和7年度那珂市水道事業会計補正予算（第1号）。

総則、第1条、令和7年度那珂市水道事業会計補正予算（第1号）は、次に定めることによる。

債務負担行為、第2条、債務負担行為をすることができる。

事項、期間及び限度額は次のとおり定める。

理由につきましては、令和8年度の水道事業運営に要する契約について、令和7年度内に締結する必要があるため、債務負担を設定するものであります。

内容につきましては、事項、期間、限度額の順で説明いたします。

事項、自家用電気工作物定期点検業務委託、期間、令和7年度から令和8年度まで。限度額116万9,000円。

委託内容につきましては、自家用電気工作物設置者は、維持管理及び運用に関する保安監督をさせるために電気主任技術者を選任し、国に届けなければならないことから委託するものでございます。

説明は以上になります。よろしく申し上げます。

委員長 これより質疑に入ります。

質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ声あり）

委員長 なければ、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ声あり）

委員長 討論を終結いたします。

これより議案第80号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

委員長 ご異議なしと認め、議案第80号は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

暫時休憩いたします。執行部は退席をお願いいたします。

休憩（午前10時27分）

再開（午前10時27分）

委員長 再開いたします。

調査事項、道の駅の運営の調査・検証についてになります。

当委員会では、道の駅の収支計画の分析を勝山氏にお願いし、分析結果の説明と意見交換を2回行いました。また、那珂市商工会、水戸農業高校の生徒たち、そして市内農業関係者と道の駅をテーマに議員と語ろう会を開催いたしました。

また、先月は滋賀県東近江市、近江八幡市へ訪問し、道の駅あいとう及び藤森氏が設計

を手がけたラコリーナの視察研修を実施いたしました。本日は、視察研修の振り返りを行い、執行部へ提出する要望書作成に向け、委員間討議を行いたいと思います。

まず、視察研修の振り返りを行いたいと思いますが、遠藤委員のほうから何か振り返りのほうがありましたらお願いいたします。

遠藤委員 道の駅あいとうとラコリーナに行ってみりましたわけですが、あいとうのほうは非常に頑張っているというイメージが強かったです。何ととっても地場産品100%で出している、これはインパクトがでかかったっすね。すばらしいなと思ったんですが、ただ、僕もちょっと調べた限りだと、農業産出額自体があそこは、東近江市ですよ、東近江市自体がもう農業産出額114億円なんだね。もう相当多い。だから、那珂市の3倍ぐらい産出しているところで、実際近畿地方では一番耕作面積が広いという、そもその農業市というか、農業の盛んな地域だったというふうに思いますね。そんな中で30年以上ずっとやっていたらというところで、すごく実績のある道の駅を正副委員長には選んでいただいたのかなというふうに思っております。

あと、道の駅ができたことよっての地域の活性化というところもお聞きをしましたが、やっぱりいろいろ道の駅を造れば当然苦勞は苦勞でいろいろあるんだなというところをお聞きしてきたかなと思っています。

あと最後に何ていうか、展望台に上って見させてもらったりもしましたが、あのSNSの効果が絶大だという話がありましたね。お花畑ですね。僕らが行ったときにはちょっといまいちでしたけれども、季節が外れちゃうとね。目の前にお花畑、あれは確かに写真で見てもばえしているなといったところですので、いろんな売り方があるかなと思うので。かといって、行ってみたらそんなにめっちゃめっちゃ広いお花畑の面積でもなかったんですよ。だから、そういった意味では見せ方というところはあるかなと思いつつ帰ってきました。

あと、ラコリーナに関して言うと、実際すばらしいすばらしいという前評判がありましたが、行ってみたら確かにラコリーナ自体はすばらしかったなと私は思っています。たねやというまさしく老舗の日本和菓子店、行ってみたら彦根城のすぐ目の前にもお店があるようなすばらしい老舗の商品で、やっぱりまずブランド力が全然違うなというふうに感じました。また、そのたねやがあそこは運営している商業施設なんですよ、ラコリーナというのは。だから、ちょっと我々道の駅とは趣がかなり違います。ですから、ラコリーナそのもの、あれがすばらしいんで、あれが那珂市に来ればそりゃ売れます。ばんばん売れます。集客あると思いました。

ただ、今回は道の駅についてどうかという藤森建築のすばらしさもあれを見て分かりましたが、あれが来るわけじゃないからね。だから、まさしく基本設計、基本計画に書いてあるごくごく一部の部分なので、それが果たしてどういう集客に影響を及ぼすかはまだまだ検討課題かな。だから、ラコリーナがすばらしいから那珂市の道の駅がオーケー

一では全然ないというのは、改めて分かりました。そういったところですかね。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

続きまして、笹島委員のほうから何か振り返りのほうがございましたらお願いいたします。

笹島委員 最初に行ったところはあいとうでしたね、道の駅で。先ほど遠藤委員が言っていた非常にメルヘンチックで30年もたっていて、敷地もそんなに広くなく、近江牛を中心としたそういう先ほど言っていたブランドがやっぱり強いということですか。周りは那珂市の道の駅と変わらず周りは畑・田んぼでしたよね。何も特徴もなくあれでしたけれども、やっぱり30年の歴史を感じる、だから非常に古いながらも何か古さをあまり感じられないような、非常に動線もよくできているんですね、やっぱり離れ離れにしないでコンパクトに造っていてという。そんなに那珂市は、非常に広く使って駐車場と言っていますけれども、大した広さもなく非常にコンパクトでいいなと思って、歴史を感じてというんで、30年もやっていると。いや、本当にやっぱり隅々まで努力しながらやっていたいかなければ、あれ30年はもたないなど。

那珂市は30年大丈夫、もつかななんてちょっと思ったんですけれども、やっぱり一つに言っていたブランドと特徴を絶えず1点でコンパクトにやっていくという、それがやっぱり成功する秘訣かなど。あまり大きくやって運営費がかかって、いろんな面でいうことで後で赤字を垂れ流して後悔するよりも、やっぱりコンパクトにやって少しでも今言っていたお花畑ですか、四季折々のお花畑、あれ、皆さんが従業員なんかやっていたらと、要するに経費をかけずにやっているというふうに、そういうアイデア。何でもやっぱり業者に頼んでお金をかければいいというもんじゃないなという、一つ思いました。非常に感心させられる道の駅でした。

委員長、副委員長、本当にいいところを連れて行ってありがとうございました。

今度、ラコリーナですね。

先ほど、遠藤委員が言っていましたとおり、非常にすばらしい。いや、維持費もかかるんじゃないかなと思いつつながら、今言っていた屋根のところには何か水を噴霧するとかというふうにしていって、あと周り、後ろに山がありまして。

那珂市もやっぱり藤森先生、あれをまねして山を造るのかなと思って。あれ借景か何かよく分からないですけども、何か同じようにすれば成功するんじゃないかなという、ああいうアイデアを持ってこられたような感じなんですね。ここは山必要ない。向こうは山も、自然の山があるのということで、だからもう一つ、遠藤委員が言ったとおり、あれが非常にすばらしいんですよ、もうそれは大絶賛しました、感動しました。でも、ここにはそぐわないなど、違うんじゃないのと。あれほど経費かけて噴霧というのは、もっと維持費も大変だし、これからですね。なるべく今言っていた道の駅云々というのは、

これは商業施設ですから。もちろんあそこはブランドの和菓子屋がそれだけのブランド力を持ってやっているわけですから、あれだけお金をかけているのは分かりますけれども、そうすると商品も高くなりますよね、やっぱり、高くしないと維持ができないから。

ここの道の駅も商品を高くすればというわけにいかない。やっぱりある程度の庶民の方も買っていたかなきゃいけないということで、ちょっと違うんじゃないかな。建物はすばらしかった。那珂市は、ちょっと合わないんじゃないかなと思って。

以上、感想でした。

委員長 ありがとうございます。

大和田委員、お願いします。

大和田委員 みんな言われちゃったんで、あれなんです、先ほど来からあいとうのほうはやはり30年の実績ということで、何ていうんでしょう、市民がみんな参加型、参加して、しっかり苦勞もしたんでしょうけれども、30年かけて作り上げたところだなというのは感じました。また、駅長というんですか、支配人というのかな、元気な方で苦勞話もいろいろあったんですけれども、那珂市の道の駅のこともよく調べられていて、大丈夫かななんて言っていましたけれども、そうやって経験した人が言うんだから大丈夫かなと思うんですけれども、市民参加型で一生懸命頑張っていたなというのは本当に非常に印象的でした。

また、次にラコリーナなんですけれども、やっぱり先ほど来すばらしい建物、藤森建築すばらしいなと思いました。一つ一つに仕掛けがあって、本当にその世界に何かこう取り込まれてしまうような建物だったんですけれども、やはり那珂市の道の駅はそこまでの感じではなさそうな感じも予算的にもですが、楽しみでもありますという感じで、あと女性がお客さん多かったですね。なので、やっぱり女性の視点でいかに経営していくかというのもこれから重要なのかなというのを非常に感じたところです。

また、やっぱりあいとうもしかり、ラコリーナもしかり、イベントもやっていたんで、イベントというのも重要なんで、そういうのがどれだけできるかというのもこれから試されていくのかなと感じたところです。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

今回小宅副委員長がメインになって、行き先何かもいろいろ調べてもらってすばらしい視察ができたことを感謝しております。

そういった意味で、ここで小宅副委員長のほうから今後の要望書作成に向けてのご説明なんかもお願いしたいと思います。

副委員長 すみません、先日の研修、本当にお疲れさまでした。

それで、どちらもすばらしい施設だったなというのは皆さん、共通する印象だったかなというふうに思います。

今、その行き先の話はありましたけれども、滋賀県にも幾つも道の駅があるんですけれども、やはりあそこ、あいとうをちょっと行きたいと思ったのは、供給率が地元100%というのがどういう仕掛けなんだろうというのがどうしても私は気になったので行かせていただいたら、すごく駅長が丁寧に、あそこまで丁寧に説明していただけたとは思えなかったんで、本当に。あと副議長も来てくださいますて、本当にありがたかったなと思います。

ということで、そういったものも含めながら、今年度の頭、産業建設常任委員会としての調査事項というような課題を出したわけで、一つのそれが課題というか、今年度中に一応の報告をしなければいけないという中で、今回調査事項の報告（案）という形で作らせていただきました。

この赤い字がそうなんですけれども、このごめんなさい、冒頭の「第三セクターの株主募集について」、これ黒字のところを間違って赤にしちゃったんで、これは気にしないでください。

ざっと説明だけしますね。

調査項目、第1項、第三セクターの在り方についてというところで、結果、第三セクターの在り方については、中小企業診断士である勝山文久氏に依頼をし、全国の道の駅の経営主体を調査していただいたところ、全国1,230駅のうち31.3%が第三セクターによる経営であるということが分かった。なお、JAや民間事業者が44.3%、直営が15.7%、財団法人が6.9%ということである。必ずしも運営が第三セクターでなければいけないわけではなく、運営がうまくいかない場合は、他の団体に変更するという選択肢も配慮すべきじゃないのかというふうに考えられる。

次は、執行部案の収支計画の整合性について。

執行部案の収支計画の整合性については、道の駅開業までに誰が何をいつまでに、幾らで、どのように行うかを示したタイムテーブルを作成し、軌道修正を重ねながら開業までのマイルストーンを決めることが成功につながる。勝山先生の分析によるとほかの道の駅の集客、周知の実績と那珂市の道の駅の集客・収支計画は大きく外れるものではなく、地域資源を生かして飲食物販コンテンツを差別化したコンセプトフードの開発などに取り組んでいくべきであるとのことであった。

続きまして、出荷高を確認するための農業生産高、新規就農者の見込みについて。

当委員会では、那珂市商工会、水戸農業高校生徒、那珂市内農業関係者との話し合いを行ってきた。

商工会女性部においては、ローゼルを使用したジャムの開発、青年部においては、市内の子供たちと一緒に作ったお米の販売などを行っている。また、水戸農業高校では、イチゴパスタや干し芋パスタなどの商品例が紹介された。

市内農業関係者では、有機栽培野菜や食べられる花などが紹介された。農業者は、道の

駅が完成すればもっと自信を持って努力していくことができるとの意見が出された。

また、11月に視察を行った道の駅あいとうでは、道の駅ができたことによって地元生産者が増加し、供給の100%を地元産農産物で補っている。道の駅ができることで新たなマーケットと生産者を生み出すことができると考えられる。

藤森照信氏の建築デザインの整合性について。

藤森照信氏の作品（建築）は、木・石・銅板など身近な自然素材を使用したユーモラスかつ独創的な建物で世界的に有名である。当委員会で視察したラコリーナ（近江八幡市）は、年間400万人を集客する滋賀県トップの観光施設であり、その建築は細部にまで炭片やしっくい壁など自然素材が用いられている。メインショップの草屋根は、屋根一面が緑で覆われており、自然と一体化したその姿は訪れる人に感動を与えるものである。藤森建築が関東で見られるところはなく、よって集客に与える影響はかなり大きいと考えられる。

那珂市の財政状況から見る道の駅の将来に向けた負担について。

市の財政負担の状況や補助金の詳細は、現在までのところ明らかにはなっていない。状況の報告を今後も執行部に求めていくとともに、当委員会として検証を継続していくものとする。

道の駅のパブリックインボルブメントについて。

先ほど質問がありましたけれども、パブリックインボルブメントといいますのは、市民の政策参加、要は計画の段階から市民の意見を取り入れながら行っていく施策のことをパブリックインボルブメントといいます。

具体的な施策はまだ示されていないため、今後の計画を見守ることとする。市民参加は、道の駅を市が造る上で最低限必要なことであると考え、市民に主眼を置いた施策を期待する。

続きまして、ホスピタリティーの提言について。

地域資源を生かしたサービスについては、商工会、水戸農業高校、農業生産者との話し合いの中で幾つも提言があった。例えば、イベントブースでのイベントや市内の案内マップの作成などである。市を挙げておもてなしをしていく努力をしてほしい。

その他考えられるリスクについて。

視察で行った道の駅あいとうでは、今年開園30年を迎えた。30年たっても年間7億円を売り上げている要因としては、生産者の育成とイベントの開催に力を入れてきたことが上げられる。持続可能な道の駅を運営していくためには、この2点は欠かすことができないものであり、那珂市の道の駅でもそこに注視して運営していくべきである。

以上になります。

あくまでたたき台でちょっと作ってみただけですけども、ここからまた皆さんの意見を入れながら報告書という形で執行部のほうに提出ができるように3月までにしたいなど

いうふうに考えております。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

それでは、委員間討議を行いたいと思います。

遠藤委員 副委員長、取りまとめをありがとうございます。

総括して、今回は委員会の最後のまとめになりますので、それぞれの分野において作っていくということになります。まず、原案を示していただいたので、あとは、この後皆さんのご意見もと思いますが、ちょっと何点かあるので、言葉でばらばらと言ってもなかなか分かりづらいと思うので、私もたたき台で文章にしてきたものがありますので、それを配っていただいて、それも併せてご検討をいただければありがたいなというふうに思っております。申し訳ありません。

それほどがらがらと変えているわけではありませんが、ちょっと修正、こういう修正したらいかがかなという私の案です。

副委員長 私の基に。

遠藤委員 そうですね、はい、全くそのとおりです。

まず、資料の2枚目の(2)執行部提案の収支計画の整合性についてというところですが、副委員長が作っていただいた赤字で、「この道の駅開業までに誰が、何を」とずっと続いていきますけれども、その部分の、「誰が、何を、いつまで、幾らでどのように行うかを示したタイムテーブルを作成し、軌道修正を重ねながら開業までのマイルストーンを決定することが成功につながる」ですね。

私のをちょっと見ていただくと、その後にはいかがかなというところになります。ちょっと勝山氏ということで統一性を図りますんで、「勝山氏の分析によると執行部提案の計画どおりの集客・売上げがあるとすれば、この収支計画は大きく外れるものではないと思われるが、そもそも前面道路の交通量から算出した集客数の是非については、勝山氏の分析においても明らかにはされず、さらに今後検討を要する。また、売上げもその集客数に直接リンクするものなので、こちらもさらに検討を要する」とした上で、それで次のちょっと若干戻って、「また、地域資源を生かして飲食・物販」云々、そこは戻ります。で終わりますというところです。

次のページ、(3)出荷高を確認するための農業生産高、新規就農者の見込みについての部分ですが、ここは副委員長が作っていただいた赤の部分の最後から1個、2個の部分ですが、「また、11月に視察を行った道の駅あいとうでは」、この後からちょっとこうしてはいかがかなと。「近畿地方最大の耕作面積を有し、供給の100%を地元農産物で賄っているが、道の駅ができたことによって地元生産者も増加したとのこと。道の駅ができることで新たなマーケットと生産者を生み出す可能性がある」ということで、できると断言するよりは一般的な言い方のほうがいいのかなという、ちょっとご提案でござい

ます。

そのまま引き続いて次のページです。藤森先生のデザインの整合性についてですが、これも最後のほうですね。最後から2行目のところからです。「藤森建築が関東で見られるところはなく、よって集客に与える影響は」、ここから修正できれば、「一定程度期待できると思われる。しかし、氏の成功事例であるラコリーナが那珂市に来れば、当然かなりの集客が見込めるが、実際にそうではなく、ラコリーナで販売している商品のブランド力や有名民間企業が経営する運営体制などとは、那珂市の道の駅は全く違う。この氏の建築デザインに過大に期待するのではなく、あくまで那珂市ならではの運営体制や地元産品開発など内容をブラッシュアップすることに注力するべきである」と一応ご提案をします。

(6) 道の駅のパブリックインボルブメントについてですが、これも一番最後です。「市民に主眼を置いた施策を期待する。」までいって、あと最後、これ付け加えればどうかなど。「なお、道の駅の計画について市民にほとんど知らされていない現状に鑑み、市民への説明責任を尽くすことを強く要望する。」

最後、(8) その他考えられるリスクについてですが、これ一番最後のページで、文章というよりも1個追加したらいかがかなと思うことは、「売上げを上げている要因としては生産者の育成とイベントの開発に力を入れて」とありますが、僕がちょっと先ほど申し上げた「イベントの開催、SNSの発信に力を入れてきたことが考えられる」と、だから「この3点を欠かすことができないもの」というふうにはいかがか、そういうちょっとご提案でございます。あわせて、委員間討議でお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

遠藤委員にちょっと確認したいんですけども、(4) 赤字のところの上から3段目ですか、「しかし、氏の成功事例」となっているんですけども、これ藤森氏じゃなくて、この氏でいいですか。

遠藤委員 はい、藤森氏の意味で。

委員長 藤森氏の成功事例と。

遠藤委員 確かに、これは重複を避けて、ただ「氏」とやっただけで、もし分かりやすく言えば藤森氏で結構ですし、あと「成功事例であるラコリーナ」と僕が勝手に言っちゃっているんです。なので、それはちょっと言い過ぎであれば、修正していただいて構いません。ここは別に他意はございません。

以上です。

笹島委員 やっぱ4番が一番大事なところですよ、藤森氏の成功事例。私は成功していると思います。なかなかの平日であれだけの集客数というのは難しいし、本当に今言っていた若い女性の方がやられていて、私らも感心してびっくりするくらいだったので、確かに成功しています。

でも、先ほど私も言ったとおり、じゃ、那珂市にそのまま持って来てはどうかということ、話が違ふんですけれども、ここの中に書いている藤森氏のデザインに過大に期待することはない、しちゃいけませんよ、執行部の方ということで一つやっぱりちょっとくさびを刺しておかないと、どうしても執行部の皆さん、建物ありきになっているんですよ。皆さんもご存じのとおり。これやっぱりくさび打たないといけないということで、これ大事なところだと思うんで、私はここは副委員長には申し訳ないんですけれども、付け加えるべきだと。一番大事なところだと思うんですよ、ここが。ぜひここへ入れていただきたいと思います。

大和田委員 まず、(2)一番上からちょっと勝山氏のところ、正直足りなかったよねというところが実際の感想というか、もうちょっとやりたい、事情もいろいろあるのは重々承知なんですけれども。

そうなってくると、何ていうんでしょう、この遠藤委員が入れた「勝山氏の分析においても明らかにされず」、ちょっと言い過ぎというか、我々ももっと宿題出して、ここはもうちょっとそこまでではないけれども、さらに検討することもまだまだあるなどいうことはこんなふうに入れていくことが必要なのかなと。

あと、遠藤委員にちょっと聞きたいのが、この「近畿地方最大の耕作面積を有し」と入れたのはなぜかちょっと伺いたい。

遠藤委員 ありがとうございます。いい質問です。

ちょっと僕もどうしたらいいかなと思って、つまり、ここの意味合い、あのとき視察をして、駅長から話を聞いたときのことを何となく思い出していただくと、こうやって例えばちょっとこの表現の仕方です。あいとうでは、道の駅ができたことで生産者が増えて、そんでもって100%の農産物というのができたんだという文言になっているから、道の駅ができたことだけで生産者が増えて100%になっている2つを道の駅が原因と言い切ってしまうののだろうかという思いがあって、いや、そもそもあそこは農業が盛んなところだと、そもそもね。だから、そもそも盛んなところと言うために、近畿地方最大の耕作面積を有している、それだけのところなんで、まず供給が100%賄っているんだ。でも、道の駅ができたことによって、その生産者が増えたというのは、もうまさにあのとき終わった後、駅長と一緒に、副委員長と僕、一緒に話を聞いていましたね。できて、新しく増えたみたいなの、ああ、そうですねなんていう、まさしく二人であの話をおと聞きた覚えがあって、それはそうなんだろう。

ただ、100%の部分というのは道の駅が原因かどうかは、これはちょっと明らかにされていないので、その部分は先にぼーんとまず持ってきた上で、道の駅ができたことによって地元生産者が増加した、ここの部分だけに引っかけたほうがいいかなという意味でございます。

大和田委員 分かりました。それならという感じもするし、分かりました。

あと、(4)なんですけれども、確かにそのとおりであると思います。建築ばかりに期待するんじゃなくて、やっぱりしっかりとした運営体制と、あと地元産品の開発をしっかりとブラッシュアップするということはやっぱり強く要望しないといけないと思いますので、これも付け加えたほうがいいことだなと思いますね。ラコリーナが那珂市に来れば、当然かなりの集客が見込める、それじゃ、呼んじゃうかなという話になるかもしれない。100億円でも200億円でも吹っかけてなんてなっちゃうかもしれない。

そこは一度文言は別としてもやっぱり後半の部分はしっかりと入れていただきたいと思います。はい。

以上です。

副委員長 遠藤委員、ありがとうございます。大変もっともだなというふうに思うところがあります。

もう一つ、実は道の駅あいの100%のからくりというか、1市5町が合併して今100%なんで、もともと愛東町だけで100%ではなかったんだと思うんですね。ただ、今はそういうふうに、あそこは広いので市そのものが。だから、この辺でいうと、那珂市だけで100%はさすがにちょっと厳しいかなと。常陸太田市、常陸大宮市、東海村というそういう広い範囲で県北というところで考えていったほうがいいんじゃないかなというふうには思っています。

遠藤委員が書いてくれたこの「氏の成功例」という言い方は、ちょっと失敗例もあるみたいで失礼かなみたいな感じがします。

遠藤委員 若干先ほどの視察を振り返りですが、ちょっと売上げが7億円上がっているという話だが、ただ売上げの中身は半分近くは果樹だったんですね。もともとは果樹はなかったんだけど、道の駅ができたことによって果樹を増やした増えたみたいな、そんなことがあったかなという感じだから、あれ、じゃ、野菜とかソバとかはどうなのかななんて心配になっちゃいましたが、果樹が多いというイメージがありましたね。

以上です。

副委員長 すみません、遠藤委員が追加してくれた6番なんですけれども、「市民にほとんど知らされていない現状」というのは、これはどういうあれですか。

遠藤委員 これも勝手な自分の表現でございますが、膨らむところ、できればインボルブメントなんでやっぱり巻き込んでいくということなんですよね、市民を。やっぱりこれだけの大きな施設なんで、当然予算の、この間、ちょっと僕の質問でもあれでしたが、予算が大きければ大きいほど説明責任も当然大きくなるし、やっぱり巻き込んで造るならですよ、造るんならいいものを造るために市民の知恵をどんどんいただくというのは大事で、ただ、知恵をいただくにしても、どんどん知恵を下さい下さいといっても、えっ、どういう内容なんですかということでは知恵も出せませんから、まずこういう計画なんですよ、どーん、どーんと出して、なるほどそういう計画なんだったらこうしたら、あ

あしたらとようやくそこから知恵が出てくるんで、まずそのインボルブメントの先は情報提供ですから、何も知らないのに意見下さいといっても言えるわけがないから、こちらのところをもう少しという思いがあって、ただ、現状はなかなかちょっと市内を歩いていると、あの計画こうだよね、ああだよね、そうだよという声はほとんど聞かれない、内容についてはね。

だから、これについてはこれぐらいの言い方をむしろして、執行部に知っていただいたほうがいいのかなどという思いはありますが、ただ、委員会としてのまとめですから、それは皆さんでうまく議論していただいて結構です。

委員長 ほかにご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

(なし)

委員長 それでは、ただいま出ました意見を要望書として正副委員長でまとめさせていただきます。まして、執行部に提出するという予定です。

副委員長 その前に1回見てもらって。

委員長 そうですね。皆様方に確認してもらってから、来年になりますけれども、提出する予定で進めさせていただきます。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 ありがとうございます。

それでは、そのように決定をしたいと思います。

続きまして、議員と語ろう会についてになります。

議員と語ろう会について、ご意見についてはサイドブックに掲載しております。

内容について問題なければ、議会だより等に掲載させていただきますが、よろしいでしょうか。

遠藤委員 これもそのまままとめていただいたんだと思います。事務局の方もありがとうございました。

ただ、僕の中でちょっと印象深かったのが水農生の生徒たちの中で当然いろんなたくさん前向きな結構ないいご意見たくさん出ていたんですが、一方で何か道の駅、本当に大丈夫ですかと、採算性を心配する声も真面目にあったんですよ。だから、そうそう、高校生、何人とは言いません、申し訳ない。いや、すばらしいなと思って。僕らのこの議論に入ってもらってもいいぐらいの採算性はどうなんでしょうか、これを出して売れるんでしょうか、来るんでしょうかと、なるほどな、若い人からもそういう声があるんだなど、ちょっと印象的に思ったものですから、せっかくこれ記録として残るのであれば、その子の思いを入れて上げたほうがいいと思うので、こういうのを録音取っているかどうか分かりませんが、ちょっと確認していただいて、ぜひちょっと入れていただくと、幅広に我々も意見を集約しているんだということにもなると思いますので、そこらをご配慮お願いできればと思います。

委員長 ほかによろしいでしょうか。

(なし)

委員長 続きまして、茨城県市議会議長会令和7年度第2回議員研修会、横手市友好訪問、台南市訪問についてになります。

まず、茨城県市議会議長会議員研修会は、来年2月16日。

続きまして、横手市友好訪問は、来年2月15、16日。

そして、台南市訪問は、来年5月2日から5日を予定しております。

まず議員研修会、こちら2名、横手市訪問が1名、台南市訪問が2名を選出したいと思います。当委員会からの出席者をどなたにするか、皆様方のご意見等を踏まえて決めたいと思います。

まず、議員研修会2名を決めたいと思いますが、私が委員長、まず1名よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 分かりました。そうすると、もう1名、大和田委員、よろしく願います。ありがとうございます。

続きまして、横手市訪問1名なんですけれども、横手市のほうは遠藤委員お願いいたします。

続きまして、台南市訪問を2名ですが、もし差しつかえなければ私よろしいでしょうか。

(「はい、委員長いいと思います」と呼ぶ声あり)

委員長 はい、分かりました。

大和田委員でよろしいでしょうか。

それでは、台南市訪問を寺門勲と大和田委員のほうでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 そうしますと、再来年につきましては、小宅副委員長と遠藤委員でお願いしたいんですけれども、よろしく願います。よろしいでしょうか。

ここで一度閉めさせていただきます。

本日の議題は、全て終了いたしました。

以上で産業建設常任委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

閉会(午前11時10分)

令和8年2月25日

那珂市議会 産業建設常任委員会委員長 寺門 勲